

## 感情共有により伝達意図のある発話が増加した自閉症スペクトラム児の症例

言語聴覚士学科

## 【はじめに】

この度、伝達意欲に向上の兆しが見られた自閉症児の症例に対し、INREALの言語心理学的技法に関わり、感情の共有によって感情の理解、感情語の表出の促進を試みる機会を得たので報告する。

## 【症例紹介】

9歳男児、医学的診断名は自閉症スペクトラム障害、教育歴は、特別支援学校在籍、児童デイサービス利用。主訴：「気持ちを本人が伝えられる手段が欲しい」。

## 【初期評価】

言語面において、聴覚・視覚刺激の側面からのアプローチにより三語文の理解が可能で、指示を理解し行動に移すことができる。発話は単語や二語文が中心。質問調のイントネーションが多い。自らコミュニケーションを取ることがある反面、一人遊びなどで自分の世界に入った場合は、学生の言葉かけに無反応なこともある。遊びに介入されることを拒む。

## 【訓練計画】

問題点としては、①自分の気持ちが言語化できない  
②要求や拒否の表出は遠回しな表現で使用されることがあり、相手が察しないと伝わらない。である。

そこで、①本児が自身の気持ちを理解し、②他者に伝わる語彙の獲得を目指した。

目標は、以下の通りに設定した。

長期目標：感情表現のための言葉の表出と汎化

短期目標：感情表現のための言葉の獲得

## 【結果】

表1において、学生の促しによる感情の表出を①促しあり、学生の促しが無く感情の表出があったものを②促しなし、自然なやりとりの中で伝達意図が確認できたものを③自己表出とした。ターンテーキングの成立回数は1回目の訓練では最大19回であったが、8回目では31回の成立がみられた。

日時	①促しあり	②促しなし	③自己表出
4/7	楽しい 1回 すき 2回 して下さい 1回	楽しい 2回 下さい 2回 しない 1回	あれー あとでボール しない？ お姉さん足で 蹴る？
7/4	いや 3回 いい 4回 置いてもいい 2回 楽しい 2回 楽しくない 2 回 嬉しい 1回	いいよ 4回 押さない 3回 座りません 1回 しない 2回 やって 1回 する 1回 下さい 1回	ごめんなさい 7月台湾行こ うね ミッキー？ あれー こっちー(指 さし) 歌の誘い掛け

## 【考察・まとめ】

INREALアプローチにより感情の理解と共有を測り、新たな語彙や文法を示すことで他者に伝わりやすい語彙が増加したと考える。本児の伝達意欲が高まり、意図伝達性のある発話が増加したことで、対人興味も向上し遊びへの介入や、やり取りの増加がみられたと推測する。今回の訓練では短期目標は達成できたと考えるが、長期目標に関しては汎化が見られなかった為、今後の課題となる。対人興味・伝達意欲を保ち、統語的・意味的理解を深める事が重要である。INREALアプローチを基本とした関りを今後も行い、経験を積ませることで汎化を促せるものと思われる。

## 【文献】

- 1) 新澤伸子：TEACCHのコミュニケーション・カリキュラムに基づくASD児のコミュニケーションのアセスメントと指導。コミュニケーション障害学。34(3), 2017, 130-134.
- 2) 大原重洋・鈴木朋美：自閉症児における疑問詞構文への応答能力の発達過程—国リハ式〈S-S法〉言語発達遅滞検査との関連—。コミュニケーション障害学。21(1), 2004, 15-22.
- 3) 竹田契一：AD/HD高機能広汎性発達障害の教育と医療。日本文化科学社。2006, 145-153.

表1. 言語表出の推移